ひと

時宗75代法主に就任した教恩寺住職
東山心徹（ひがしやましんてつ）さん

4つの名前を持つ。心徹は僧侶としての名。書道家としての号は石徹。戸籍名は勉。そこに時宗法主としての四つ目の人が加わった。1月6日に就任し、藤沢市にある総本山・清浄光寺（遊行寺）から宗派の指揮をとる。

先代の他阿真円上人（加藤円住氏）は昨年12月9日102歳で亡くなった。次の法主と決まっていた人が高齢のため辞退し、推薦委員会がつくられて東山さんが選ばれた。7年の任期制となって初めての法主となる。

新潟県にある生家が、時宗の寺の檀家だった。小学校の先生でもあった住職が、祖父の法事の際に「私に預けなさい」と親に持ち掛けた。18歳の高校生のときだ。

「どんなことをするのかと、興味半分だった」遊行寺での修業が始まった。朝早くからのお勤めや掃除。ところが「つらいと思った覚えがない」御付きになったお坊さんが、珍しいお菓子が届くと声をかけてくれるなど、楽しい思い出が多いという。

退山後、各寺をつとめたところに、かつての兄弟子から声が掛かった。鎌倉市大町にある教恩寺の跡を継がないかという話だった。当時の住職は高齢で跡継ぎがなかった。以来、半世紀がたつ。

時宗の法主は、宗祖一遍上人の後継、他阿真教上人以来、他阿の名を継いでいる。全国を布教に歩いた一遍上人の教えから、「遊行上人」とも呼ばれる。

時宗寺院は全国に約400カ寺。コロナ禍の影響は各寺にも及んでいる。人が集まれず、法事が中止になることもある。例年、遊行寺では節分に特設舞台をつくって豆まきをしているが、今年は取りやめた。

「リモートや文書だけでは、人と人のつながりが薄くなってしまうではないか、居酒屋でお酒を飲むのも、音楽やスポーツなどの楽しみも大事なこと」と心配する。

東日本大震災などからの各寺の復興支援や、東南海地震などを想定しての制度づくりも課題だ。

「今、私の魂に響くもの」2022ソナタの変遷

4月3日14時、藤沢リラホール。

桐朋学園大学音楽後、英国留学を経て、神奈川推薦音楽会や東京シティフィルとのコンチェルトなど出演多数。

「今、私の魂に響くもの」のシリーズの第9回目。ベートーヴェン「ソナタop.27−2『月光』」ショパン「ソナタop.58」など。3000円。響の会・児玉方☎22・7704

児玉康子さん

児玉康子 ピアノリサイタル

学校法人 鎌倉女学院
中学校・高等学校
心身ともに健康で
国際性豊かな人間教育
〒248-0014 鎌倉市由比ガ浜2丁目10番4号
電話(0467)25-2100(代表)

明治37年創立

いざっ!! 鎌倉てらやま

心の〝たまり場〟
鎌倉てらやま事務局 豊田 晋

オンライン会議システムを利用した事業「てらやまぴあ」を、2月13日に開催した。

普段は子どもたちでにぎわう大学生スタッフがおしゃべりやゲームを楽しむことが多いが、今回は翌日のバレンタインデーにちなんで、お菓子を持ち寄りデコレーションする催しを企画した。

6人の子どもたちが参加し、一刻も早くおかしに取り組みたいのにお菓子やデコレーション材料の紹介もほどほどに、メイン企画が始まってしまうハプニングも。

てらこやたまりば

途中、何を作っているのか、お互いにクイズを出し合ったり、学校や家族での出来事の話をしたりして大いに盛り上がった。飾り付けたお菓子を見合う「お披露目会」の時間となり、画面いっぱいに広がったカラフルでおいしそうなお菓子が映し出され、工夫した所を興奮気味に教えてくれた。お菓子を満足そうに頬張る子どもたちの表情から自慢作ができたことが伝わってきた。

別れ際、「次はいつやるの？」「コロナが怖いから対面の活動には行けない」と話した男の子がいた。彼は東京に住んでいるため、鎌倉まできて活動に参加するのが難しいのだという。

活動中、近況や今ハマっているゲームのことを楽しそうに話していた。みんなが退室しても最後まで残り、向こうから手を振って別れを惜しんでいた姿が印象的だった。彼はこの「てらこやたまりば」へ毎回のように参加しているが、大学生と会うためにオンラインの場へ来てくれているのだ。

オミクロン株が広がり、子どもたちの間でも感染が拡大している。彼にとってこのオンラインの場が、安心して集える〝たまり場〟のような場所になってくれていたのなら嬉しい。

鎌倉てらやま事務局
☎0467・84・9746（平日13〜17時）
http://kamakura-terakoya.net/

みる

▼県立近代美術館
▽葉山館「奥谷博−無窮へ」4月3日まで。東京藝術大学時代の1950年代から現在までの代表作と上京前の作品を展示。「祈りの千手観音」など約110点。120円。要予約。☎046・875・2800

奥谷博「針千本」1965年 油彩、木 東京国立近代美術館蔵

▽鎌倉館「川口勝弘展−『日記』（1945−1955）に見る」4月17日まで。戦後日本メディアアート先駆者山口勝弘の日記から見えてくる作家らとの関わりや初期作品から活動の出発点を振り返る。7百円。要予約。☎22・5000

▼春、うらら。−清方の風景とスケッチ
3月4日〜4月10日鏑木清方記念美術館。春の情趣あふれる作品と、鎌倉、箱根、大磯の風景や草花のスケッチなど。2百円。☎23・6405

▼川喜多映画記念館 企画展「崩壊と覚醒の70sアメリカ映画」3月13日まで。ニューシネマに始まり現在へ繋がるエンターテイメント映画のメガヒットに至るまで70年代のアメリカ映画を紹介。2百円。

▽関連上映 3月13・5日10時半、2・4・6日14時「恐怖の報酬」1・3・5日14時、2・4・6日10時半「オール・ザット・ジャズ」▽シャンドール・ベルトもテレビが1953年（昭和28）本放送を開始。約百年前、放送につくした先人の業績に感謝。

現在、放送中のNHK朝の連続ドラマ、戦後間もなく放送され親しみやすい英会話講座にもふれている。

当時、英語は憧れ。子供の耳も捉えたドラマをみると電波の強い抱擁力が伝わってくる。

いきいきと三月生る　雲の奥　飯田龍太

▼時代は進む休まずに
3月、弥生。1925年（大正14）3月22日は放送記念日。

東京で仮スタジオを設け、NHKが日本のラジオ第一声を上げた日だ。「アーアー聞こえますか…こちらはJOAK、JOAK。こちら東京放送です。こんにち只今より放送を開始します」

7月11日、愛宕の東京放送局（現・放送博物館）から本放送開始。

世界初の放送局は米国・ピッツバーグ。1920年11月2日に開局。日本に先立つことわずか5年。

興味深いのは草創期のラジオドラマ。東京では「放送舞台劇」、大阪では「台詞劇」。名付け方にも明治期の面影が濃厚。

思えば文明開化のザンギリ頭に、大正ロマンのラジオ旋風は暮らしに「聞く」楽しみを創造。ラジオに次いで日本でテレビが1953年（昭和28）本放送を開始。

▼広重の堅絵東海道勢ぞろい12Daysの京旅行
4月17日まで藤澤浮世絵館。日本橋から京都まで東海道の宿場や周辺を描いた広重の「五十三次名所図会」から約12日間の旅を追体験。無料。☎0466・33・0111

▼ふしぎなせかい
3月21日まで茅ヶ崎市美術館。収蔵作品から非現実的、ふしぎな作品を展示。作者と見る側の想像力の「ふしぎ」に触れる。☎88・1177

▼鎌倉彫の香合−掌の美を愛でる
3月31日まで鎌倉彫資料館。室町時代から現代の小型の鎌倉彫香合を中心に約40点を展示。3百円。☎25・1502

▼山口蓬春の古陶磁が奏でる美の世界
4月3日まで山口蓬春記念館。蓬春が愛蔵した古陶磁と蒐集家としての側面を紹介、日本画や下図からいかに古陶磁を作品に取り入れたかを探る。6百円。☎0467・87・5475・6094

▼ミロコマチコ いきものたちはわたしのかがみ
4月10日まで横須賀美術館。第18回日本絵本賞大賞を受賞。近作から新作までの絵画、絵本原画、立体作品など2百余点。1100円。

▽関連イベント 3月20日15時、ライブペインティング。要申込。☎046・845・1211

▽山の手入れ2月19日10時、山ノ内配水池脇。

▽山歩き20日9時、山ノ内公会堂。北鎌倉の景観を後世に伝える基金・望洋の実現を目指し、大人も子ども、共に知り・体験し・学び・響き合う場を創造。▽ミュージックフェア19日10時。子どもから高齢者まで逗子周辺で活動する演奏団体が出演。無料。▽逗葉でこきげんよう19日14時。逗子の魅力を音楽、朗読、手話、歌で感じるトーク＆バラエティ。無料。▽トモイクミュージックコンサート「いのちかがやく本のシンプルで本質的なメッセージに触れる19・20日10〜15時。絵本からのメッセージに触れる。無料。☎046・870・6622

▼北鎌倉・台峯の緑（みどり）**をもとめて**
3月19・20日逗子文化プラザホール。共に学び、共に育つ「共育のまち」の推進